

第10回

'99選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 1999年1月24日 (日)
 □ コース / 小倉北区・北九州市役所前—
 八幡西区・北九州プリンスホテル
 折り返し 32.8km

一般・大学の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般・大学の部

- 1 デオデオ (広島) 1° 46'44"
- 2 三井海上 (東京) 1° 47'12"
- 3 九電工 (福岡) 1° 47'24"
- 4 富士銀行 (東京) 1° 47'27"
- 5 岩田屋 (福岡) 1° 47'43"
- 6 天満屋 (岡山) 1° 47'49"
- 7 TOTO (福岡) 1° 50'26"
- 8 京都産業大学 (京都) 1° 50'27"
- 9 四国電力 (香川) 1° 50'31"
- 10 ラララ (熊本) 1° 51'22"
- 11 十八銀行 (長崎) 1° 53'49"

区間賞

- 第1区 (4.5km) 磯部 知子 (岩田屋) 13'33"
 第2区 (5.9km) 真鍋 裕子 (四国電力) 18'39"
 第3区 (5.1km) 麓 みどり (デオデオ) 16'17"
 第4区 (5.9km) 福地 愛 (富士銀行) 19'44"
 第5区 (11.4km) 小島田貴子 (デオデオ) 36'24"

高校の部

- 1 諫早 (長崎) 1° 48'21"
- 2 筑紫女学園 (福岡) 1° 48'46"
- 3 神村学園 (鹿児島) 1° 50'49"
- 4 白石 (佐賀) 1° 51'52"
- 5 九州国際大付 (福岡) 1° 52'12"
- 6 松山商業 (愛媛) 1° 53'02"
- 7 山田 (高知) 1° 53'20"
- 8 西京 (山口) 1° 53'45"
- 9 柳川 (福岡) 1° 54'05"
- 10 戸畑商業 (福岡) 1° 54'39"
- 11 明善 (香川) 1° 56'12"
- 12 富岡東 (徳島) 1° 56'53"
- 13 近大福山 (広島) 1° 56'57"
- 14 米子商業 (鳥取) 1° 58'32"
- 15 鶴崎工業 (大分) 1° 58'49"
- 16 北九州市選抜 (福岡) 1° 59'35"
- 17 宮崎日大 (宮崎) 2° 02'48"
- 18 豊見城南 (沖縄) 2° 04'10"
- 19 大連市 (中国) 2° 04'17"
- 20 倉敷南 (岡山) 2° 05'20"

区間賞

- 第1区 (4.5km) 藤永 佳子 (諫早) ★12'54"
 第2区 (5.9km) 長尾 育子 (筑紫女学園) 19'06"
 第3区 (5.1km) 西山 貴美 (松山商) 16'37"
 第4区 (5.9km) 福井亜由美 (白石) 20'30"
 第5区 (4.9km) 中嶋 美帆 (筑紫女学園) 16'41"
 第6区 (6.5km) 高峯 恵梨 (諫早) 20'40"

★は区間新



5人抜き快走を見せ、優勝のテープを切るデオデオ・小島田貴子

一般・大学の部

逆転でデオデオ 6年ぶり頂点 アンカー小島田が5人抜き

節目の記念大会を制したのはデオデオ。アンカーの小島田貴子が5人抜きの快走で逆転、ダイイチ時代の第4回大会以来、6年ぶり2回目の優勝を飾った。

1区で岩田屋と天満屋が飛び出した。2区で四国電力を含む3チームがダンゴ状態に。3区で天満屋が抜け出し、20秒差で岩田屋。8位でタスキを受けたデオデオの麓みどりが5人抜き、区間賞の走りでも3位に浮上。4区に入っても天満屋、岩田屋の1、2位は変わらず。逆に3位以下はめまぐるしく順位が入れ替わった。

そして、最終5区。トップの天満屋から65秒以内にデオデオまでの6チームがひしめく大混戦。デオデオの小島田が後方から追い上げ、中間点の手前でトップを奪って逃げ切った。

初出場の三井海上は後半勝負のオーダーが決まり、2位に入った。4区まで終始トップ争いを演じた岩田屋と天満屋は最終区で逆転を許し、それぞれ5、6位に沈んだ。

小島田貴子・デオデオ5区 「取りあえず、目の前の相手から抜いていこうと走りました」

麓みどり・デオデオ3区 「ダイイチ時代の優勝よりうれしい」

高校の部

諫早が初優勝 一度も首位譲らず 1区の藤永が驚異的な区間新

諫早の超高校級ランナー、藤永佳子が1区で一般の選手をも上回る12秒54の驚異的な区間新記録をマーク。諫早はそのまま最後まで首位を譲らず、悲願の初優勝を果たした。

藤永は出だしの1kmを2分55秒。細かいアップダウンのある難コースを上下動の少ない省エネ走法で滑るように走り抜け、最後まで失速しなかった。2位の九国大付に50秒差、ライバルの筑紫女学園には52秒差をつけてタスキを渡した。5区までに筑紫女学園に6秒差に詰められたが、アンカーの高峯恵梨が集中力のある走りでも逆に25秒差に広げ、初Vのゴールテープを切った。

ほぼベストオーダーを組んだ筑紫女学園はじわじわと差を縮めたが、スタートでの出遅れが響いて2位。神村学園は終盤に粘りを見せて昨年と同じく3位。連覇を狙った西京は、エースを含む都大路のメンバー3人を欠いて8位に沈んだ。

5年ぶりに参加した北九州市の友好都市、中国・大連市の体育学校生選抜チームは19位に終わった。

藤永佳子・諫早1区 「真っ白な気持ちで走った。全国高校駅伝、都道府県対抗駅伝で失敗し、悪いままで終わりがたくなかった。来季に向けて走りのイメージをつくりたかった」



初優勝した諫早のアンカー・高峯恵梨